

彙 報

研究活動等 (2020年1月～2020年12月) (学科別五十音順)

総合政策学科

石 山 宏

1. 著書・論文等

- (1) 『検定簿記講義 / 2級商業簿記 (2020年度版)』 (共著) 中央経済社, 2020年3月。
- (2) 『検定簿記ワークブック / 2級商業簿記 (第6版)』 (共著) 中央経済社, 2020年3月。

2. 社会活動等

- (1) 山梨県出資法人経営検討委員会委員

大 西 康 雄

1. 研究論文

- (1) 単著、「フーコーとマクルーハンの交点－『言葉と物』における古典主義時代の表象の転回を読み解く－」, 『山梨国際研究』15, 1124頁, 2020年3月

2. 教材その他

- (1) 「学生のためのGoogle Classroom入門[PC & スマホ版]」, 2020年4月
- (2) 「教員のためのGoogle Classroom入門 (2020.4改訂版)」, 2020年4月
- (3) 「Google Classroomの成績データのExcelへの取り込み方法」, 2020年8月

3. 社会貢献

- (1) 山梨高校へのオンラインによる出前授業実施, 2020年8月

熊 谷 隆 一

1. 評 論

- (1) 『自治研かながわ月報』巻頭言「一国の総理が『自助・共助・公助』を語る意味を問う－『地方の時代』は終わらない」(『自治研かながわ月報』第187号 (2020年12月号)、公

益社団法人・神奈川県地方自治研究センター、
2020年12月25日発行)

2. 講師・パネリスト

- (1) 第4回山梨政策フォーラム (山梨県立大学国際政策学部・地域研究交流センター共催)「コロナ危機で考える東アジアの政府間関係の課題」(Web シンポジウム、2020年10月17日(土) 14:00～17:30)

第一部：講演(2) 「日本の新型コロナウイルス対策における中央と地方の関係性について」

第二部：シンポジウム「東アジアにおける政府間関係の改革課題」パネリスト

3. 論文査読

- (1) 自治体学会学会誌『自治体学』掲載論文査読

4. そ の 他

- (1) 社会的活動 (学会評議員)
自治体学会評議員 (地域選出) (2016年8月19日～、再選・継続)
- (2) 社会的活動 (研究所理事)
(公社) 神奈川県地方自治研究センター理事 (2019年4月～、継続)
- (3) 特別研修
独逸 ルール大学客員研究員 (2019年9月～2020年8月)

箕 浦 一 哉

1. 学会発表

- (1) 兼古勝史・箕浦一哉・土田義郎「日常風景としてのサイン音：浜松市のミュージックサイレンに対する住民意識」日本サウンドスケープ協会2020年度春季研究発表会、オンライン開催, 2020年6月20日。

2. その他

- (1) 冊子『やまぐらし：学生が伝える移住のリアルin山梨県早川町』（アカデミック・スキル演習成果物），山梨県立大学国際政策学部環境社会学研究室編，2020年3月発行.
- (2) 「特集のことば（特集 気候変動と専門家）」『環境社会学研究』26，p. 6，2020年12月

国際コミュニケーション学科

伊藤ゆかり

1. 著 書

- (1) 単著、『アメリカ演劇が描く歴史と戦争』（ヴィーツーソリューション）、2020年4月

2. 論 文

- (1) 単著、「パークスが描く亡霊としてのヒロイン」、山梨県立大学国際政策学部紀要『山梨国際研究』第15号、pp. 1-10、2020年3月

3. そ の 他

- (1) 単著、「英語劇ワークショップを実施して」、2019年度山梨県立大学地域研究交流センター共同研究『研究成果報告書』、pp. 7-8、2020年3月

大村 梓

1. 著 書

- (1) 共著、編集・石田仁志、ベシュレール、アナトン、『文化表象としての村上春樹』青弓社、[分担範囲] 大村梓「翻訳に内包される異国性—村上春樹『中国行きのスロウ・ボート』」、35-47頁（2020年1月）

2. そ の 他

- (1) 翻訳、ドッド、ステイーブン、（大村梓訳）「影」の不変的な重要性—永井荷風『すみだ川』から村上春樹『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』まで」、編集・石田仁志、ベシュレール、アナトン、『文化表象としての村上春樹』青弓社（2020年1月）
- (2) 講演、蒔田裕美、講演「山田耕作の舞踊上演：バレエ・リュスとの関係を中心に」、企画・運営・司会：大村梓（2020年1月）

賀 南

1. 著 書

- (1) 共著、山田留里子、賀南、角屋敷葵『直前対策！中検準4級・4級合格ドリル』駿河台出版社、2020年3月。

高野美千代

1. 研究論文

- (1) 単著, "John Bunyan's *The Pilgrim's Progress* in Japan: Early Translations" 山梨県立大学国際政策学部紀要『山梨国際研究』第15号、37-44頁、2020年3月
- (2) 共著、高野美千代、佐藤幸治「近世英国における地域博物誌の誕生—ロバート・プロット著『スタフォードシャーの博物誌』の背景と意義—」英米文化学会編『英米文化』第50巻、11-29頁、2020年3月
- (3) 共著、Graham Parry and Michiyo Takano "The illustrations to Dugdale's History of St Paul's Cathedral : subscribers and their sentiments," *The Seventeenth Century*, Volume 35, Number 4, 473-497, July-August 2020.

2. 外部資金による研究活動

- (1) 科研費挑戦的研究（萌芽）研究代表者、2019年度～2021年度予定
課題名：「近世英国と日本における書物文化の偶発的パラレリズム研究」
- (2) 科研費基盤研究B 研究代表者、2017年度～2020年度予定
課題名：「ウィリアム・カムデンの系譜におけるブリティッシュアイデンティティの探究と成立」

張 兵

1. 論文（含書評論文）

- (1) 単著（査読付）、「日中関係の深化に向けた民間交流の可能性とあり方」東方書店『東方』第469号2020年3月
- (2) 単著（査読付）、「Nihon Senryoka no Chugoku Musurimu」 Taylor & Francis Group 『Journal of Contemporary East Asia Studies』
DOI : 10.1080/24761028.2020.1742456
- (3) 単著（査読付）、「橋本循の王漁洋研究について」王漁洋文化研究センター『王漁洋文化』第33期2020年10月

2. その他研究活動及び社会貢献

- (1) NPO法人山梨県中国語・国際交流会副理事長(2020年度)
- (2) NPO法人宋慶齡基金会日中共同プロジェクト委員会副代表理事(2020年度)
- (3) 日中関係学会宮本賞推薦委員(2020年度)
- (4) 日本華人教授会議会報『東アジア論壇』編集委員(2020年度)

名和敏光

1. 著 書

- (1) 共著：水口幹記主編『前近代東アジアにおける〈術数文化〉』、勉誠出版、2020年3月、307頁。
- (2) 共訳：三浦国雄・田訪監訳、姜生著『漢帝国の遺産 道教の勃興』、東方書店、2020年10月、653+18頁。

2. 学術論文・翻訳

- (1) 単著：「堪輿占考」、『前近代東アジアにおける〈術数文化〉』、勉誠出版、2020年3月、43～51頁、査読無、日本語。
- (2) 単著：「“諾皋”考」、『出土文献語言研究』第三輯、暨南大学出版社、2020年8月、単著、105～128頁、査読有、中国語。
- (3) 単著：「第三章 漢代仙譜考」、姜生著『漢帝国の遺産 道教の勃興』、東方書店、2020年10月、233～333頁、査読無、日本語。

3. 外部資金による研究活動

- (1) 研究代表者、日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究(C)、研究課題番号：19K00057、研究分担者：末永高康(広島大学教授)、研究協力者：武田時昌(京都大学教授)、総額：4,420千円)、「最新出土資料による陰陽五行思想の総合的研究」、2019年4月～2022年3月。(継続)
<https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-19K00057/>参照。
- (2) 研究分担者、日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究(B)、研究課題番号：20H01301、研究代表者：水口幹記(藤女子大学准教授)、総額：17,680千円)、「5～12

世紀の東アジアにおける〈術数文化〉の深化と変容」、2020年4月～2023年3月。(新規)
<https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-20H01301/>参照。

4. 学会活動・その他

- (1) 立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所研究員、2017年5月～現在。
- (2) 山東大学儒学高等学院国際漢学研究中心兼職教授、2017年5月～現在。
- (3) 中国出土資料学会理事、2016年4月～現在。
- (4) 日本道教学会理事、2020年1月～現在。
- (4) 東京大学東洋文化研究所研究班「中国古代文献の成立に関する多角的研究」研究員、研究代表者：小寺敦教授、2009年4月～現在。
<http://www.ioc.u-tokyo.ac0.jp/project/group.html>参照。

萩原孝恵

1. 著 書

- (1) 共著、『自然会話分析への語用論的アプローチ—BTSJコーパスを利用して—』(学術書)、宇佐美まゆみ編、宇佐美まゆみ、木林理恵、野口美美、平山紫帆、磯野英治、母育新、李宇霞、鈴木卓、萩原孝恵、川口義一、ひつじ書房、2020/03
*第20回国立国語研究所所長賞受賞

2. 研究論文

- (1) 共著、萩原孝恵、池谷清美(2020)「タイ人の舌打ち—マルチモーダルインタラクションにおけるその意味—」『山梨県立大学 国際政策学部紀要』第15号：75-86。
- (2) 共著、西部由佳、岩佐詩子、金庭久美子、坂井菜緒、萩原孝恵、奥村圭子(2020)「日本語インタビューテストにおけるターン受取後の『考えている』表現の分析—学習者のレベル別差異とその特徴—」『2019年度日本語教育学会支部集会予稿集』(関西支部)、39-44。[査読有]

3. 研究発表

- (1) 西部由佳、岩佐詩子、金庭久美子、坂井菜緒、萩原孝恵、奥村圭子(2020)「日本語

インタビューテストにおけるターン受取後の『考えている』表現の分析—学習者のレベル別差異とその特徴—」口頭発表、日本語教育学会2019年度第5回支部集会@関西大学、2020/03/14

4. 研究助成

- (1) 科学研究費補助金基盤研究 (C) (一般)
19K00580「言語文化に起因する価値観とフェイスが表出する『舌打ち』と『笑い』の実証的研究」2019-2022 (研究代表者)
- (2) 日本語OPI研究会研究班「コミュニケーションのための効果的な相槌や受け答え—日本語OPIにおける母語別特徴—」2020-2021 (共同研究)
- (3) 山梨県立大学地域研究交流センター研究課題「オンラインによる高校進学ガイダンスの実施と高校進学後の日本語指導—新たなフェーズへ向かう実践と研究—」(研究代表)

5. 研究員

- (1) 国立国語研究所共同研究プロジェクト共同研究員 (2020.04-2021.03)

6. 社会貢献

- (1) 山梨県地域日本語教育推進会議委員
- (2) 山梨県外国人児童生徒支援連絡会議委員
- (3) 山梨県大規模小売店舗立地審議会委員
- (4) 甲府市多文化共生推進委員会委員